

勉学の旗

(高須中学校だより)



平成29年2月14日号

高須中学校長 山口和久

2月3日(金)に新入生説明会を行いました

来年度本校に入学予定の小学校6年生とその保護者の方々を招いて、本校入学に向けての説明会を行いました。私は、6年生の皆さんがきちんと姿勢よく人の話を聞いているのを見てとても感心しました。また、それ以上にうれしかったのが、本校生徒の皆さんがこの説明会のために力を注いでくれたことです。たとえば、体育館にシートを敷き、イスを丁寧に並べてくれた人。説明会后にその会場を片付けてくれた人。しおり作成に協力してくれた人。説明会の中で、学校生活の様子を映像で分かりやすく説明するために準備してくれた人、また、実際に説明してくれた人。それ以外にも、この説明会のために気をつけてくれた人。本当にありがとうございました。

さて、この説明会の冒頭に私の方から2つの話を6年生の皆さんにしました。1つ目は、昨年度までこの説明会の前に行われていた「校内見学」は実施しないということ、2つ目は6年生の皆さんが1ヵ月後に手にする「卒業証書」の意味について、です。

1つ目の校内見学を実施しない理由は、6年生の皆さんに「中学校は授業中だから」と説明しました。中学生は一生懸命に授業に集中している時間だからです。それにかわって、6年生の皆さんに、少しでも校内の様子・学校生活のことを知ってもらうために、生徒会執行部が映像を作り、実際に生徒が登場し、説明をしています。

2つ目は1ヵ月後に本校3年生に私から手渡す実際の卒業証書を使って話をしました。その卒業証書には「右の者は中学校の全課程を修了したことを証する」と書かれています。「修了」は「終了」ではありません。多分同じ文面(「中学校の全課程」が「小学校の全課程」に変わりますが)の卒業証書を、小学校の卒業式で校長先生から授与されます。6年生には少し難しかったと思いますが、この「修了」の意味を知ってほしかったのです。そしてそれは当然中学校3年生の皆さんにも、です。

この2つのことを6年生の皆さんにお話したということは、本校が力を入れていることは「授業を大切に」ということと「中学校で身につけなければならないことは、中学校で身につけられるよう努力しよう」ということであることを、6年生の皆さんと保護者の皆様にお知らせしたのです。

現実にはそんなに簡単にいきませんが、きちんと物事に取り組んだり、他人の心の痛みを感じたり、人の役に立つ事に少しでも喜びを感じたり、そんなことが出来る子どもたちを育てたいと、いつも考えて先生方と奮闘しています。

「今日も授業を大切に」

「あいさつ・靴そろえ」とともに、すべての学年の下足箱周辺にこの言葉は掲示されています。あいさつと靴そろえについては、生徒の皆さんはかなり意識して行動できるようになりました。でも残念ながら、授業については、まだまだです。

今求められている学力は、知識や技能の量だけではなく、それを粘り強く獲得しようとする意欲や過程、また、獲得した知識や技能をどう活用するのか、が中心となっています。生徒の皆さんにも分かりやすくとえて言えば、定期考査で一つの問題に対して正解を書くことよりも、その答えにたどり着くまでの考え方

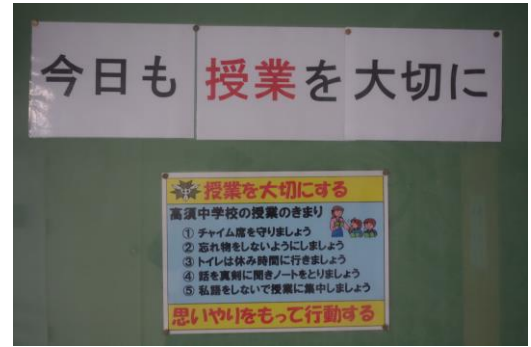
【裏面へ】



【正門前にて、あいさつ運動の一場面】

を書くことの方が配点が高いということでしょうか。そして、その考え方や答えを粘り強く活用しないと解けない問題が次に出てくるのです。その問題は、多分今まで見たこともない問題だと思います。なぜなら活用するとは、知っている事を使って、知らない事にチャレンジするということからです。

先日、昨年度の福岡県の公立高校入試の社会科問題を試してみました。最初の方の問題は知識を問うものだったので、すんなり解けていくのですが、途中から問題文がやたらと長くなります。粘りのない私には、1回読んだだけでは、頭に入りません。がんばって3・4回読み返してやっと、「これらの資料から読みとれることを根拠に(活用して)、この文章の()にあたる文章を作るんだな。」と分かりました。



授業中の様子を見ていると、本校の生徒の皆さんは、このような問題がとても苦手だろうと思います。それは「わからない・知らない」＝「自分はできない」と勘違いしていて、問題文を読んだり、自分なりに考えたりすることをやめている人が多いからです。世の中、実は、分からない事、知らない事だらけで、それでも大部分の人は、少しの量でも分かっている事、知っている事を使って、考えて、自分なりの答えを出して生活しています。

当然、中学校での授業の様子や評価の考え方も変わってきています。少なくとも、定期考査の知識の量を問う問題の結果だけで評定(5・4・3・2・1)がつくことはありません。授業中の活動の様子や提出物の内容に重点が置かれることは言うまでもありません。また、実際に定期考査の問題も、知識を問うだけではない問題が出題されています。もしかしたら、それは生徒の皆さんにとってみれば、今まで見たこともない問題かもしれません。

いずれにしても、「授業を大切に」することが、今、そしてこれからもとても重要になることは間違いありません。